

## アジアのスラム問題が問いかけるもの ーバンコクの変わりゆくスラムー

〈地球市民として共に生きるアジア理解セミナー〉（鼎談とビデオ上映）

講演者：Prateep Ungsongtham Hata（バンコクプラティープ財団事務局長）

秦辰也（曹洞宗国際ボランティア会・バンコク・アジア地域事務所長）

司会：新津晃一（国際関係学科教授）

協力：曹洞宗国際ボランティア会・三鷹国際交流協会

日時：October 27, 1994 (14:50-17:20)

場所：H-262

近年、タイ経済の急成長とともにバンコクのスラムもその様相を変えつつある。講演者の二人は、これまでクロントイ・スラムに居を構え、スラム住民のための教育・福祉活動に携わってこられた。そうした体験を踏まえスラム問題の現状とその解決すべき諸問題について語っていただいた。なお本講演会は司会者を含む鼎談形式で行われた。以下その概要を列記する。

1. スラム人口膨張の原因は①農村における商品化経済の浸透にともなう貧富の格差の増大により貧困化し、農村から都市へと移動してきた人々、②急速な工業化の結果、労働力人口の需要の増大により流入した人々、③あるいは両要因により流入した人々からなる。

2. 都市に流入した人々は比較的土壌管理がゆるい公共用地などに不法に居住し、これがスラム形成の背景となる。1992年の統計によればバンコクには約981ヶ所のスラム地区が存在、周辺5県を含めた Greater Bangkok では1404ヶ所のスラムが存在している。

3. 問題解決のため、政府、バンコク都庁、NGOなどが活動している。政府についての問題は富の分配政策の問題である。たとえば、工業化優先で農業は二次的。税制についても間接税（消費税）の比率が非常に高く、また相続税などはなく、上層階層に有利な仕組が形成されている。国民の権利意識は低く、教育の向上、民主化運動が必要とされる。中央集権的な政治から、地方分権へと変えてゆく必要もある。

タイの諸NGOは現在約200カ所ぐらいのスラムに色々なかたちで関わっているが、予算、人材面で問題がある。タイの経済発展の結果、外国からのNGO助成は減っている。またNGOより企業への就職関心が強く、よき人材が集まらないといった問題もある。

（講演は日本語で行われました。）

（文責：新津晃一）